

水田たより 12月号

令和2年12月1日

JAみえきた

桑名地域農業改良普及センター

水稻新品種について

三重県では、農業者の経営規模拡大やリスク回避のひとつとして、コシヒカリ品種への集中から需要に応じた他の品種への分散を推進しており、今回は、米の高品質化や業務用米の安定供給に向けて、実需者と連携して導入を進めている県育成品種を紹介します。

■早生品種「なついろ」

「コシヒカリ」と比較して

- ・成熟期が6日程度早い
- ・耐倒伏性に優れる
- ・穂数はやや少なく、粒が大きく、収量は同程度
- ・いもち病抵抗性（葉いもち）は非常に強い
- ・高温登熟性に優れ、玄米の外観品質は優れる

「なついろ」試験結果

三重県農業研究所調べ

品種名	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
なついろ	7/12	8/10	78	20.8	434	593	23.2
コシヒカリ	7/14	8/16	89	19.4	474	573	21.6

4月25日移植・松阪市嬉野にて栽培

東員町にて栽培した結果は、4月28日移植で、出穂期は7月18日、成熟期は8月20日でした。

■中～晩生品種「みのりの郷」

「みえのゆめ」と比較して

- ・成熟期が6日程度遅い
- ・耐倒伏性は強い
- ・穂数や粒大は同程度で、収量は多い
- ・いもち病抵抗性は強い
- ・ごま葉枯病抵抗性は弱い

「みのりの郷」試験結果

三重県農業研究所調べ

品種名	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
みのりの郷	8/10	9/12	69	20.9	370	594	23.6
みえのゆめ	8/3	9/6	70	20.8	373	588	23.4

5月15日移植・松阪市嬉野にて栽培

桑名市にて栽培した結果は、5月26日移植で、出穂期は8月21日、成熟期は9月25日でした。

■「みえのゆめ」ごま葉枯病抵抗性新品種

令和2年産より「みえのゆめ」のごま葉枯病抵抗性新品種が桑名管内でも試験栽培されています。今後、同品種へ切り替える方向で推進していきます。



桑名普及センター LINE 公式アカウント 配信中！

桑名普及センターでは、LINE 公式アカウントを取得し、作物関係の情報を配信しております。JA及び普及センターが配布しております、紙ベースの水田たより等から友だち追加を行ってください。ホームページにおいては、これまで通り、過去の水田たよりや他の情報も掲載しています。桑名普及でご検索ください。

裏面：「次年度のカメムシ対策について」についてもご覧ください。





次年度のカメムシ対策について

本年は害虫の発生が多く、特にカメムシ類の吸汁加害による不稔（収量の減少）や吸汁痕（等級に影響）がみられました。越冬量が多くなり、来年も発生が多い可能性があるため、今のうちに稲の防除計画や作付計画を考えて、カメムシ対策を万全にしましょう。

■吸汁害とカメムシの種類

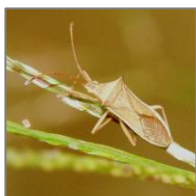
カメムシ類の吸汁害は、カメムシの種類や吸汁する時期によってその様相が異なります。

玄米の品質から、①発生時期、②被害種を判断することができるため、次年度の防除に向けて、今年産の玄米の品質を確認しましょう。

	不稔	頂部	側部	表面全体
被害部位	 <p>登熟初期の加害により発生。不稔が多くなると、傾穂せず、大きな収量減となる。</p>	 <p>籾の頂部や割れ籾部の隙間から加害されると、被害部が黒変する。</p>	 <p>くさび状の裂開が発生し、被害部が黒変する。</p>	 <p>斑紋型の変色。カメムシ被害粒のなかで最も発生量が多い。</p>
発生時期	穂揃期～乳熟期	乳熟期	乳熟期～糊熟期	糊熟期～
被害種	<p>アカスジカスミカメムシ</p> <p>ホソハリカメムシ</p> <p>クモハリカメムシ、イネカメムシ、ミナミアオカメムシ</p>			



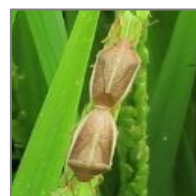
アカスジカスミカメムシ



ホソハリカメムシ



クモハリカメムシ



イネカメムシ



ミナミアオカメムシ

■次年度のカメムシ対策

①防除計画の策定

- 今年の被害状況を確認し、薬剤防除の時期を計画しましょう。

被害が多かった地域では、**2回防除が必要**となります。

○1回目防除 **不稔籾の防止** … 穂揃期に、水田に侵入した成虫を防除します。

○2回目防除 **斑点米の防止** … 登熟初期に、生き残った成虫と幼虫を防除します。

- カメムシは移動性が高く、**広域での一斉防除**が効果的なので、共同防除を活用しましょう。

②作付け計画の策定

- 周辺圃場よりも出穂の早い品種、または遅い品種では、カメムシの被害が集中しやすいため、**出穂期ごとに圃場を団地化**させましょう。
- 畦畔や圃場内のイネ科雑草はカメムシの発生源となるため、**出穂期の10日前までに除草が完了するように**、除草の計画を策定しましょう。